

## 2016 年度聖書の集い（第 6 回）

2016 年 11 月 9 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

1、聖歌 496 番 「わが主イエスよ ひたすら」

2、お祈り

3、聖書 「コリントの信徒への手紙一 13：1～13（新約聖書 317 ページ）」

4、今日の内容

心に留めたい聖書のことば

「⑥愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。」

今年の聖書の集いの中で、「愛」について考えるのは二回目です。一度目は、愛という言葉が「大切にする」という意味を持つということをお話ししました。

今回はもうすこし深く、「愛」について考えていきたいと思います。



### ① 愛がなければ

たまに街頭で、募金活動をしている人たちに出会うことがあります。赤い羽根募金であったり、盲導犬普及に対するものだったり。写真などを用いて、海外の子どもたちに対しておこなっているものもあります。

子どもたちって素直です。「ねえ、お金ちょうだい。入れてきたいから」。そう願う子どもの表情には、「かわいそう」、「何とかしてあげたい」という心が見て取れます。子どもたちは知らないうちに、知らない相手を愛そうとしているのです。

しかし大人になって自分を振り返ってみたときに、純粋な気持ちで募金に応じているかと言われると、それだけではないような気がします。人が見ているから、見栄を張って。そのような理由でお金を入れていることだってあるかもしれません。その行為自体はどんなに素晴らしくても、愛がなければ無に等しいのです。

## ② 愛は忍耐強い

では「愛」とはどのようなもののでしょうか。今日の聖書の中にこのようにあります。

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

一つ一つの言葉を丁寧にみていく時間はありませんので、簡単に言います。わたしたちが人を愛するとき、相手に対して見返りを求めることはないでしょうか。「こんなに愛したのだから」と考えてはいないでしょうか。でも聖書は、愛とは一方的に与えるものであって、自分に返ってくるものではないといっています。

たとえば子どもが赤ちゃんだったとき、ミルクを与えるたびに「お母さんがミルク作ってあげたんだから、晩御飯はあなた作ってね」とは言わないでしょう。熱を出して寝ている赤ちゃんに向かって、「看病してあげてもいいけど、わたしがおばあちゃんになったら介護してね」と約束したりはしません。それは愛ではないのです。

そうではなく、一方的に与えられる愛が、聖書が伝える愛なのです。その愛を、わたしたちが関わるすべての人に与えなさいというのです。

## ③ その中で最も大いなるものは、愛である

人々がみんな、そのような愛をもつならば、世界は平和でしょう。でもキリスト教国と呼ばれている国でさえ、戦争をし、自国の利益のことを優先して考えているのが現実です。そこに愛をみることはできません。

では聖書は理想を言っているだけでしょうか。そうではありません。聖書が言いたいことは二つあります。一つは目標です。わたしたちが目指す方向は、このようなことなのだと伝えているのです。愛することは大変だけれども、いつかそうなってほしいと告げるのです。

二つ目は、たとえわたしたちが人を愛することができなくても、神さまはわたしたちを愛しているということです。神さまは一方的に、何の見返りも求めずに、わたしたちを愛してください。その愛に気づき、まず愛で満たされてほしい。それが神さまの願いなのです。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）：毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝：毎週日曜日 午前 10 時 30 分から

オリーブまつりは 11 月 13 日(日)、子ども祝福式は 11 月 20 日(日)